

新日本労働者同盟館

27 共産主義者同盟書記局

一一・二七 国会占拠闘争の勝利万才！ 11・27 国会モーテル 敵の攻勢をストップモの波で叩き潰せ！ 一一・一〇ヤネヌートで調印を粉碎せよ！

1. 国会への云々

力こそが勝利の力

安保改定阻止の斗争につづける全国の労働運動者
われわれ労働者も真夏同様は、十一・二七才八次統一行動は今
初した三万人の首都の労働者、学生に代って、革命的アロレ
タリアの誇りをもつて、今日のわれわれの斗いと勝利とを祝する
まことにわれわれはやったのか。

一九五九年十一月二十七日酉后、首都の労働者たちは、現
在補金中の國金を占拠し、その大半を労働者埋め、「いた。
しかも武蔵宮駅の凶暴を弾圧し、手を打ち取つてである。

三百人の労働者、学生は、安保改定阻止と原田閣閣の斗争
において、首都の労働者は課せられたまゝ、当り前のように行動を
みずから手を切り削られた。「議會の神聖」ある古河デニール
首領の労働者として、安保改定のありたなる突破口をひらく
という任務を、われわれは果した。労働者たるは、必ずしも労働
労働者組織の力こそが、すべてのものと打てる唯一のもので
あること、労働者の前進度をもつて、そしたことに由つてである。
労働者たるは、必ずしも労働者たるは、必ずしも労働者たるは、
本隊長報と労働者組織の合意によるあらゆる手段でコ
ーパーを打破り、たゞりは次の斗争に進むる武器にしだい。
諸君！

十一月二十七日の事実は次の通りを示す。商業新聞によく
いろいろなデモは、次のようにウソをつかだ。

赤旗、国会にひるがえる

われわれは、正午ころから国会に連する三人連絡——中央セ
ルセンター前、人形橋、特許裁判所前——に集まつた。午後二時
には六万の労働者が四方に集つた。千葉、川崎前には、労働組
合組織を中心とした労働者と、法政、明治の学生など、千葉、
千葉連絡には、日鉄、全土、電通、公企体の労働者と中人池
の学生合計二万。

特許裁判所には、金井、台北、渋谷他の民間労働者と地元の
労働者と東大、早大の学生合計二万。

散電を轟き都内的主要道路を全部封鎖し三ヶ月の後の方々に九千
人の労働者と、機関の上位の労働者と連絡をとふなど、中央
部止前では十台にかかる車両並びに城北の前進を阻んで
いた。今日は国会へ向つて歩きながら歩いた。といつて決意して
えて、スクランブルで進んだ労働者は、彼の筋骨をもとと
もしかつた。

午後四時頃には特許裁判所の労働者、学生が坂の下からの猛烈
なデモを国会に近づく、警官の壁を敵り首相官邸前に立つた。先頭には全印労連、全全労働者と東大、早大の学生となり
た。

人形院前の内閣、金子、櫻田、田中公の見事な立ち台のトラン
音出しにまじり、一二三回の「国会横づけ」で、国会横づけ進んだ。ついに国会側の
行動は、国会の事務所の警官も業者にいたる者にいたる者にいた
が行なはれ、同時にには、遂に特許裁判所労働者と国会の機の
道に出て、一川代りに労働者、人形院、キヤベルの労働者に向つて、
太刀を抜きあげる。一方で警官の面から差し下りる者。
武装警官は腰袋を腰にかけ、銃を出し、槍を立て、「いに」国会側の
労働者を小刀はじめに、
と刀柄、手をベルすなれば、正門の労働者は装甲車に向つて、
遂に正門前に達し、部屋他の労働者と法政大学他の学生が正門
に併さがつけて押開され、国会の中に入つた。
郵便局と金庫運の機械室に国会の中に高々と立つて、
「おかけ声が遙かなるもあが「神聖な国会」にいよいよはう
にそらの鏡に国会場の労働者は髪、土手をまだいとさんどんと
に入った。全金の旗、化粧室の旗、全国一般の旗……労働者の
赤旗が国会の前庭に高くかかづれ、テモの隊列がつくられ、喜
びに顔をかわやかに労働者が躍るうつにテモの前庭を走りま
した。

正門は「實質外ならぬ」と政府はあつ。しかし、正門を、
日本の、そして世界の本当の人々へ労働者を通つたのだ！

す、む労働者、色を失う夕ノ幹

労働者の幹部が手をもとせざりて、ハイと二本だ。
こうしてそこを労働者が国会に入り、遂に数万の労働者が国会
を埋めつくした。

国会は、眞木家の桜序を守る神聖な物だと考るる者と家賀院に
は、「これは構なべべここにこすれど」。
しかし、労働者たちにとっては、国会の労働者が入ることに向の不
思議があろか！ 労働者は數十名の労働者と労働者の労働者を
出でて、廊下を経て、廊下をは、自動車で労働者をもれいの、「労働者は
がれへく」いふいの御前で、御前で御前で御前で御前で御前で御前
労働者は学生は大學生を守る準備でした。「どうぞお知りたのだ。
内閣の大學生の下で、国会の大學生の上に、すの労働者は学生
が勝利をついた。

労働者は、自分に立つて自分の力で、脚と股の前にひきずつた
一歩前進をとつた。

この時、手足が弱弱しく引かれたのである。

浅田、吉野、大庭、佐藤、原田など労働者、労働者の指導部は、この労働
者の運動の堅苦い反応より前へ進んだ。労働者が実力でかなり勝
手に立つて、かなり多くは労働者をもつて、實力が一か入つて、
さえた。勝利に満ちた労働者の内に東川、若林、若林、若林の労働者たちが立つて、
「これが、ますのものか」と懐疑的だが、決して失望しないのである
ので、彼は立場を取つて、形ばかりの意見大會をもつては解散をすらる
たる密をもつて、しかし、労働者は一人も持たなかつて、労働者
もしかがつた。

諒に烈しつきあける声が宏響力一とつんだ。「ここで勝
ととは同じ事だ。」と車によじのばつて抗議する労働者がふるえたり
たる密をもつて、しかし、労働者は一人も持たなかつて、労働者
もしかがつた。

自からの方で、社員労働者が幾十隻もしてなかつてことをかしこよだ
革命的労働者は、もう彼等の言葉では動かなかつた。

三人目で現わしたのは、眞木神山代表だった。彼が車の上に現
れた。

れどやがて止まり、轟がささ耳を立てた。社会民主主義者の会うことを聞くからなく、大東の前に現われし自由生産者は何と云つたか。彼は本講師、社会主義の効果をもたらすものと、何のことはない。社民の代表者にはつて労働者に解放を要求しただけなのだ。しかし社会学者、共産学者、新左翼、現に労働者が飛らざつて当然の空氣——国会の占拠と当然の二点にとほ一ト言おうねいのだ。

労働者は二つに分れた。黙りこんでこれまでの元気となくするものと、詫びやお詫びをする慰りをもつて抗議するものと、思つた労働者は官公室へ上り、神山の演説労働者によつて中止させられた。

一人の労働者は叫んだ、「神山、お前を帰して去つても誰も嫌いにして、誰に答えるのはではない。一人の労働者も勤がばかり」。日本労働運動の勇うる部分を見らるる労働部の裏切りがこれほど明白に表れていたとは云はなかつた。三〇人の一安政改定反対の叫び声が空氣を開く官公室街をこころを奮わせたるまで、大衆は福井部の眞實では勤がなかつたのに。

労働組合がましくすしに強烈から過ぎ去るにあひだし、植松は歸つていた。金子・金属・鉄道・農林牧業部の一部が三〇と外に出ていた。皆、疲弊でどううの氣氛でいるのに一度、これほど明快に表れていたとは云はなかつた。

「人間が自分自身の運命を握つてゐると、また金澤連と一部の労働者はこうして随内にとり残された」。その時、角川洋治の講師はやつて来て「随内のこととは我々の感覚がやる。語君は帰つてく。さあ秩序反対をえきやう」と云つた。以下次へ爲めし的是は完全に誤解だけだった。終盤や製糸操縦部の間では、「社會主義を説きなけれは、自軍車などと戻つて来て、『随内のこととは我々の感覚がやる。語君は帰つてく。さあ秩序反対をえきやう』

と云つた。だ下文で「爲めし的是は完全に誤解だけだった」。正義が明確に示さずして、学生は防衛の力の限界と力を考へて、全學連は随内に自己を放て、隊伍以前に集大東会を開いた。警視庁の会に向つていて、一人の警察もなし。その後、七つゝ金前へ押しきつた後、新潟までの行進は終つて、みやぐこの日の行動は終つたのである。

2. 斗いこそが労働者を変える

斗いに参加した三つの労働者、学生は、その行動と何の異ともなく自己にやつてつけられた。

曰和見吉義者は押しのけられ、力が勝利した。

ある労働者は、議事堂正面長い階段を上るテラ隊と、映画「戦艦ノチヨムギノ」のオーデッサの階段にとど、居る労働者は同原と金井の際、金澤連と行動を共にしたことと協力合意。ある労働者は最初に議事堂の壁を破つて国会の土手をこえた。この萬葉の労働者の戦つたのは何から? 戦々はこれを「自らかづた一日」に設立してはならなかつた。

この斗争の第一の意義は、労働者階級の力が全てを決定する

ものであることを実証した長がある。しかしそれは岩浪のこれまでの危機を打破するキッカケを明確に与えたこと、さうのブルーノー講会の件など、それにしがみつく労働者階級の現状の堵壁の本體と、一度は豪華したことになつて、一層大きくなることを許して貰つた。

この豪華の間に、労働者階級の力——物理的な力が斗争の勝敗を決した事件は、これが二つで三度目だ。一つは九三二年のメーデー事件、二つは一九五六年の渋谷事件として今度だ。

労働者階級における衝突といつ形もつた斗いし、この三つの間に大きな力の差の前進を認める。ソーデー事件は、當時の労働階級の組織勢の辺りから切離され、上野頭方面の辺りとして組織的に引出された。労働のコトは、派手な影響を全く及ぼさない。それで良一、平井の手で、大きな影響を及ぼさない、それを除む。一方のコトは、流され、流された間に血を多く失つたが、初めで暴力に對して勝利した。そのことが裏地までの方向をもどしたが、こうした斗いの豪華は労働者の中に一層の教訓として心に刻み込まれたのである。

この豪華の間に、同じ事態が繰り返された。前回に打つて引出されて初めて、斗い力としてのみがもつてまるうだ。それを除む。一方のコトは、派手な影響を及ぼさない、それで良一の手で、大きな影響を及ぼさない。これが二つとくとほり二つとくとほり可能であることを立証したのである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。

これが二つとくとほり可能であることを立証したのである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。

これが二つとくとほり可能であることを立証したのである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。

これが二つとくとほり可能であることを立証したのである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。

これが二つとくとほり可能であることを立証したのである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。

これが二つとくとほり可能であることを立証したのである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。しかも斗いは、次回から必ず再び出現することである。

筆者によれば、この「政治的暴力」は、大學生の一部が暴動事件に際して、警視庁本部を襲撃した事件と、その際に射殺された者たちに対する暴力である。日本労働者階級の「政治的暴力」は、労働者階級の意識が、社会的、政治的問題に対する理解度を高めた結果として生まれたものとされる。

筆者は、その「政治的暴力」を「政治的暴力」ではなく、「政治的暴力」の「政治的暴力」と定義している。つまり、労働者階級の意識が、社会的、政治的問題に対する理解度を高めた結果として生まれた暴力行為を「政治的暴力」と定義している。筆者は、この「政治的暴力」を「政治的暴力」の「政治的暴力」と定義している。つまり、労働者階級の意識が、社会的、政治的問題に対する理解度を高めた結果として生まれた暴力行為を「政治的暴力」と定義している。